

～評価点こそ努力の結実～

建築 **田中工務店 285点**
秩父土建 280点 **土木**



発行所
 日本工業経済新聞社
 さいたま支局
 さいたま市浦和区高砂3-10-4
 電話 048(862)3331
 FAX 048(862)3499
 本社 東京都文京区千駄木3-35-11
 電話 03(3822)9211
 URL : www.nikoukei.co.jp
 ©日本工業経済新聞社

企業種で田中工務店の285点、土木は秩父の280点、埼玉県は1白付で21・22年度の入札参加資格格付名簿を公表した。本紙では今日から3回にわたり入札資格格付を「読み解く」と題して発注者が求める格付の項目ごとの対応力、各格付における建設業者の取り組み状況、技術点項目はこれで良いのか、何故この項目があるのかといった多角的な角度から建設業者の取り組み状況を分析する。第一回目は評価点と何かか、本誌に評価されている企業はどこなのか、各業種ごとに紹介する。土木では秩父土建の280点、建築では田中工務店の285点、舗装は高村工業の280点とハイスコアを出している。

県21・22年度 格付を読み解く①

公共事業を希望する建設業者が必ず受ける経営事項審査による格付点に加え、各発注者ごとにさまざまな切り口から独自に加算する評価点で、いわゆる各業者の努力次第で加算される格付点と、なっているのが評価点と言える。その合計点数が資格審査数値として現される。

田中が一律に定められる経営事項審査の点数は、いかにせん大手が有利に機能する配点と考へられている。中小建設業にとっては不利になる傾向にある。それに対し、発注者ごとに加算する評価点は、発注者が取り組みでほしいことや、社会的な取り組みとして期待される点を項目し、配

点とする。本業の技術力はもちろん、環境・子育て支援など社会的な責任を果たしているかなどを項目に加算していることが特徴。

では業種ごとに評価点の高い企業を見てみる。土木は、秩父土建が280点でダントツのトップ。続いて、伊田テクノス、島田建設工業、古郡建設、関口工業、松永建設、シン建工業、藤原工業、ケイジーエム、真下建設、初雁興業などが210点以上で、Aランクでも田部井土木が210点とハイスコアを獲得している。

建築を見るに、県内業者企業種合わせると最高得点となる285点を田中工務店が獲得して、

内田緑化興業、北島ソリエーション、西山都市開発が112点でトップ、次いで小沢電気工事105

長井電機217点とこれまで200点超えに。続いて、ムサン電機工業、三信電気、中村電設工業、小沢電気工事、浦和電気工事などが200点超えている。舗装では、土木と異なる部分があるのが特徴。高村工業が280点とトップに立ち、荒木建設工業、ケイワールド日清、齋藤組、松永建設、サイレキ建設工業、伊田テクノス、瑞伸建設工業、羽生工業、中里組、真下建設が100点以上を叩き出した。

造船は、つかさクリンが171点でトップ。次いで、安江造船100点、清海園148点、以下東廣園、東洋メック、電気においては、埼玉電設の245点をトップに、丸電240点、続く

0点、埼玉設備工業200点と200点を超えた。次いで、昭和工業、高橋組、高元建設、島村工業、和光建設、守屋八潮建設、丸和工業、鈴木工務所が210点以上となっている。

0点以上となっている。Aランクでもダントツは280点とハイスコアを叩き出している。

次回は格付項目ごとの業者ごとの取り組み状況を紹介する。

点、交設、住吉建設、猪田、次回は格付項目ごとの業者ごとの取り組み状況を紹介する。